

知事、承認の方針



辺野古埋め立て

県幹部に伝達

あす会見で表明

仲井真弘多知事は26日午前、那覇市の知事公舎に県の幹部を集め、政府が米軍普天間飛行場の移設に向けて申請した名護市辺野古の埋め立てに関して対応を協議し、埋め立てを承認する方針を伝えた。幹部らが明らかにした。27日に記者会見を開き、正式に表明する予定だ。

協議後、県幹部らは「知事の方角性は示された。27日に発表する」となどと語った。協議では申請に対する審査内容や今後の段取りなどについて確認した。

仲井真知事は25日に安倍晋三首相と官邸で会談し、米軍牧港補給地区の返還前倒しなどの負担軽減要望に対する首相からの回答について「驚くべき立派な内容を提示していただいた。お礼を申し上げる」と高く評価していた。

だが県内移設反対の世論が根強い中で知事が承認の意向を固めたことに対する県民の反発が広がっており、26日は市民らが公舎前で「辺野古の海を埋め立てるな」「公約を破る知事は辞めろ」と抗議の声を挙げた。

知事は27日の会見に先立ち、県民にどう説明し理解を得るべきかを後援会や自民、公明両党の幹部らとも協議し、詰める考えだ。

一方、知事は26日午後、来年1月の名護市長選への出馬を取りやめた島袋吉和前市長と、移設推進派の保守系候補として一本化されることになった末松文信前県議の二人と公舎で会談した。

辺野古埋め立ての不承認を求め知事公舎に押し掛けた市民団体のメンバーら＝26日午前、那覇市寄宮